

休眠預金活用事業 地域若者サポートネットワーク設立事業
九州若者サポートネットワーク
2024年度活動報告書



休眠預金活用事業 2022年度通常枠 地域若者サポートネットワーク設立事業

事業実施団体
特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット

〒870-0043 大分県大分市中島東1丁目3-5 シャガール中島2F おおいた子ども支援ネット内
Mail info@9sapo.com 公式サイト https://9sapo.com

社会福祉法人グリーンコープ



2025年6月13日発行

Contents

1	九州若者サポートネットワークとは	01	3	2024年度の主な活動	03	5	第1回九州子ども・若者おうえん助成助成先団体の活動報告	09
	九州若者おうえん基金とは	01		1 九州若者おうえん基金				
2	メッセージ	02		2 九州子ども・若者おうえん助成				
	メンバー	02		3 2024年度主なイベント				
	運営体制	02	4	グリーンコープとの協働	08	6	ご支援のお願い	13

九州若者サポートネットワークとは

家族を頼れない、頼るべき大人がいない。幼い頃の虐待などが要因で心に深い傷を抱えている子どもや若者たち。体調を崩したり仕事を失ったりすると、頼れる実家がないために住む場所や食べるものにさえ困ってしまうギリギリの状況で頑張っている人たちが多くいますが、状況が困難であればあるほど現行の支援制度では対応ができません。

そんな支援の網からこぼれ落ちてしまう子ども・若者たちをサポートしている支援者＝伴走者たちが各地にいますが、そうした活動の多くは持ち出しによって行われているのが現状です。

九州若者サポートネットワーク(9sapo)は、彼らに寄り添って伴走型の支援を行う九州・沖縄の伴走者たちを、市民や民間団体、企業の力を集めてサポートしていくことを目的に、特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット(大分県)と社会福祉法人グリーンコープ(福岡県)との協働で設立した民間ネットワークです。

児童福祉のみならず、若者支援、まちづくり等多様な活動を行う方々とつながりあい、社会をデザインしていきます。子どもや若者たちの笑顔と伴走者たちの安心が増えるよう、おうえんしたりされたりしながらみなさんにつながりあえるネットワークを目指します。



九州若者おうえん基金とは

九州若者サポートネットワークが造成・運営する基金です。現行の法律や制度だけではカバーしきれない子ども・若者の困りを受け止め伴走する支援者や支援団体に助成を行うための基金です。地域のみなさまや企業さまから広くご支援を募り、集まったお金を助成金として伴走者たちへ届けます。子ども・若者たちの多様な自立を、伴走者への助成を通しておうえんしています。

Message

九州若者サポートネットワーク事業(以下9sapo)の2年目が終了しました。昨年度助成させていただいた団体への伴走支援、3年間の休眠預金活用事業としての中間報告会、基金造成など、少しずつ9sapoとしての業務フォーマットが見え始めてきた一年でした。昨年度助成させていただいた団体のみなさまからは、九州各県で子どもたちや若者たちのために取り組まれているそれぞれの活動に大きな希望をいただきました。制度のスキマや制度にはなっていない支援が、子どもたちや若者たちにとっても必要なものであることを学ばせていただいています。宮崎県にて実施した中間報告会では、山本昌子監督をゲストに迎えた「REALVOICE」上映会を行うとともに、宮崎県の多様な団体に活動報告をいただきました。報告会のテーマであった「きちんと知り、伝えよう」ことの大切さを感じました。基金造成では、グリーンコープ共同体が「子ども・若者支援カンパ」を創設してくださいました。困難や生きづらさを抱える子どもや若者の現状を知っていただき、たくさ

んの組合員の方々の想いが基金というカタチにつながりました。また、11月児童虐待防止推進月間に行われた「ORANGEWALK 2024」(認定NPO法人日本子ども支援協会主催)に参加し、北海道から沖縄まで本当に多くの方々にご寄付をいただくことができました。そのほかにも公益財団法人SBI子ども希望財団さまや地域の企業、個人のみなさまにも過分なるご寄付をいただくことができました。「つながる」ということが、特別で、難しいとも言われる時代です。しかし、本活動を通じて私たち9sapoはたくさんの方々におうえんしていただき、つながりを持っていただくことができました。心より感謝申し上げます。私たちの活動の先にいる子どもたちや若者たちを「ひとりぼっちにしない」。9sapoはこれからもみなさんとのつながりを大切にしながら、より良いネットワークを創っていきます。引き続き、ご理解・ご支援・おうえんのほどよろしく願いいたします。

九州若者サポートネットワーク事務局長
(特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット理事長)
矢野 茂生



Member

- | | | | |
|---|---|---|--|
|  | 運営委員長
相澤 仁
大分大学福祉健康科学部
特任教授 |  | スペシャルアドバイザー
吉田 一生
厚生労働省
健康・生活衛生局総務課長 |
|  | 伊勢 強志
特定非営利活動法人
おおいた子ども支援ネット 理事 |  | 山田 敦弘
株式会社日本総合研究所
リサーチコンサルティング部
シニアマネージャー |
|  | 岩朝 しのぶ
認定特定非営利活動法人
日本子ども支援協会 代表理事 |  | 日高 容子
一般社団法人
グリーンコープ共同体 代表理事 |
|  | 名田 敬仁
特定非営利活動法人
宮崎文化本舗 理事 | | |

9sapo運営体制

- 幹事団体 特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット
- コンソーシアム団体 社会福祉法人グリーンコープ
- 広報チーム 株式会社Cont



2024年度の主な活動

Activity

1 九州若者おうえん基金 基金造成

民間団体や企業、個人の方など多くのご寄付を受け、助成事業に活用しました。

寄付総額

5,172,650円

内訳	金額(円)
公益財団法人SBI子ども希望財団さま	1,000,000
グリーンコープ共同体 子ども・若者支援カンパ	3,419,300
ORANGEWALK 2024 寄付金	510,000
個人(銀行振込・マンスリーサポーター)	43,350
株式会社Contさま	100,000
株式会社ククラズさま	100,000
合計	5,172,650

Activity

2 第2回九州子ども・若者おうえん助成 助成先団体決定

親や家族を頼れないなど、社会生活が困難な状況に置かれている子ども・若者たちが、社会的孤立や経済的困窮に陥ることなく自分らしく生きるための活動に従事する伴走者を支援します。

第2回助成では、若者の自立や暮らしの保障などに係る費用に助成する「若者おうえん枠」と、伴走者の活動に係る費用に助成する「活動おうえん枠」で公募し、7団体9事業に3,903,000円の助成金をお渡ししました。

※残りの基金は繰越金として次回助成および事業運営費に使用させていただきます。

若者おうえん枠 …若者の自立や暮らしの保障などに係る費用への助成

助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(円)
NPO法人 そだちの樹	福岡県	公的資金を充てることができない 若者の生活保障にかかる経費	200,000
認定特定非営利活動法人 心澄	長崎県	ケアリーバーやヤングケアラー、経済的 困窮者に対する生活保障にかかる経費	200,000
認定NPO法人 トナリピト	熊本県	若者の緊急的なシェルター利用に かかる経費	200,000
一般社団法人 ある	沖縄県	公的資金を充てることができない 若者の生活保障にかかる経費	200,000

活動おうえん枠 …困難な状況にある若者に寄り添う伴走者の活動に係る費用への助成

助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(円)
特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪	佐賀県	地域コミュニティ等を活用し孤立した 若者の自立を促す「おむすび(お結び)」事業	650,000

こんな活動を行います!

子どもシェルターを退所した方や虐待経験があるなど困難を抱える若者のための地域コミュニティとの相互交流の場「おむすび」(居場所)の運営に助成金が活用されます。若者が孤立し、生きる目標を見失う前に、負担なく相談したり手を差し伸べられる場所を提供し、自立へのサポートを行います。



助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(円)
認定特定非営利活動法人 心澄	長崎県	失敗&成功体験事業 ～若者のチャレンジを支える伴走型支援～	519,000

こんな活動を行います!

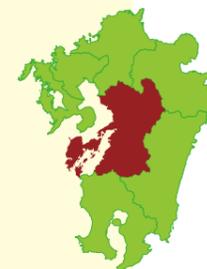
ケアリーバーを含む若者当事者によるカフェの運営と、若者の緊急避難や一時保護を行う際に必要となる経費に助成金が活用されます。より多くの若者が安全に安心して暮らし、つながりや生きる意欲を育み、社会的自立へ向けてステップを踏める環境づくりを目指します。



助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(円)
子ども若者保健室 ～らしく～	熊本県	熊本の子どもの若者自殺0を目指した 子ども支援事業	300,000

こんな活動を行います!

地域の子どもたちが安心して過ごし、必要なときには助けを求められることができる居場所づくりと、困難を抱えた子どもの親が交流できる親カフェの運営費に助成金が活用されます。子ども若者、親を孤立させない地域社会づくりと熊本の子どもの若者自殺0を目指します。



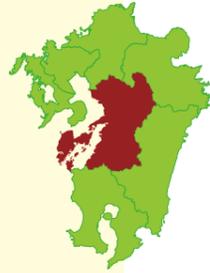
2024年度の主な活動

活動おうえん枠 … 困難な状況にある若者に寄り添う伴走者の活動に係る費用への助成

助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(円)
認定NPO法人 トナリビト	熊本県	親を頼れない子ども・若者の居場所スペース および相談窓口事業	950,000

こんな活動を行います!

社会的養護経験者や親を頼れない子ども・若者が気軽に自由に来所し、自分らしく安心して過ごせる居場所の運営に助成金が活用されます。若者たちがほっとできる居場所や大人と出会い、次への足がかりを見つける過程に寄り添い、自分らしく生きていけることを目指します。



助成先団体	所在地	申請内容(概要)	助成額(円)
特定非営利活動法人 みんなの教室	大分県	学校に行けない子どもたちの居場所 フリースクール事業	684,000

こんな活動を行います!

行き場のない子どもたちの居場所となるフリースクールの運営に助成金が活用されます。子どもたちや親に寄り添いながら、全ての子どもたちが幸せに生きられる社会づくりおよび誰一人取り残さない社会づくりの実現を目的としています。



助成先の採択について

若者おうえん枠・活動おうえん枠の両枠とも、書類選考と面接にて選考委員が必要性、信頼性、妥当性、伴走性(寄り添い)、先駆性(活動おうえん枠のみ)の評価基準を5点満点で評価し、その点数を踏まえて運営委員の合議の上で決定しました。

Activity

3 2024年度主なイベント

困難や生きづらさを抱えるこどもたち・若者たちの今をきちんと知り、伝えあう。そして九州の支援団体や支援者のつながりがますます深まり、広がることを願って、宮崎県でイベントを開催しました。



REALとのであい きちんと知り、伝えあう。こどもたち・若者たちのこと

2024.10.25



1 当日の様子

特定非営利活動法人宮崎文化本舗さまのご協力をいただき宮崎キネマ館で開催しました。



3 当日は企画/監督の山本昌子さんにもご来場いただきました。



5 事業報告

休眠預金を活用した3年間の本事業の中間地点を事務局長よりご報告しました。専門職を含む多様な方々と、互いに見えること・できないことを持ち寄り協働して取り組むことで、福祉活動や社会のデザインが豊かになります。9sapoはこれからもみなさんとつながりあいながら、こどもや若者、そして伴走者たちを支える九州・沖縄のネットワークを広げていきます。



2



4



ドキュメンタリー映画「REALVOICE」上映

イベント名「REALとのであい」はこの映画との出会いがはじまりでした。社会的養護と深く関わる児童虐待。傷に向き合い続ける若者たちの声を、参加者のみなさんとともに聴き、深く考えあう時間となりました。



トークセッション

「きちんと知り、伝えあう。こどもたち・若者たちのこと」宮崎県を中心にこどもや若者・地域のために活動されている3名の方にご登壇いただきました。こどもや若者の孤立を防ぐためには、きちんと知り、伝えあひ、共に支えあつなぐりが大切なことを、会場のみなさんとの交流も交えながら分野を超えて確かめあいました。



みなさまからお寄せいただいたたくさんのご感想をSNSでご紹介



Facebook



Instagram

データ

令和5年度/全国233か所の児童相談所での児童虐待相談対応件数は225,509件。心理的虐待(言葉による脅しやきょうだい間での差別的な扱い、目の前で暴力をふるうなど)の割合が最も多く、次いで身体的虐待(叩く、外傷を負わせるような行為など)の割合が多くなっています。★こども家庭庁ホームページ/児童虐待の現状 令和5年度児童虐待相談対応件数(令和7年3月現在)より

2024年度の主な活動



#歩いて子ども支援 ORANGEWALK 2024

2024.11.1~11.30



11月の児童虐待防止推進月に合わせて、子ども・若者支援に関わる16団体が集結して開催されたチャリティウォークイベントに、支援先団体として初めて参加しました。

虐待はあってはならないことですが、加害者である大人や家族も悩みや複雑な事情を抱えていることが少なくありません。

虐待が起きてしまう前に、困難を抱える親子の幸せに思いを馳せ、人と人のつながりを失って孤独・孤立に陥ってしまうことを防ぐようなあたたかなつながりが、地域のあちこちに広がればー。

そんな思いにご賛同くださりスマホアプリを通してご参加くださった2,596名のみなさんと共に1ヶ月間それぞれの場所やペースで歩数を重ねた結果、9sapoは最終的に51万円の分配金をいただき、「九州若者おうえん基金」助成金として支援団体にお届けできるようになりました。

多くの方に9sapoを知ってご参加いただけたことを大変ありがたく心強く思う毎日でした。みなさまに心から感謝します。

データ

子ども家庭庁では毎年11月にオレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンを実施し、児童虐待防止のための広報活動などを実施しています。オレンジ色には子どもたちの明るい未来を示し、虐待を防止するというメッセージが込められています。

全国の参加者のみなさまのご感想

- 応援と健康と一石二鳥!
- 団体と一体感が良かった
- 歩くだけで寄付できるのが良い、歩く励みにもなる
- 順位を抜いたり抜かれたり楽しかった
- ライバルに負けまいと燃えた
- 自分の一歩が誰かの助けや救いになると思うと、気運の低さとか気分を超えて、もう少し歩こうと前向きになることができました
- 特別なことではない、普段の行動が支援につながるという手軽さがいい
- 知らない誰かと一緒に力を合わせている感じが楽しかった
- 虐待問題を考えるという身構えてしまうが、歩くだけで支援ができるという手軽さなので、周りの人達に「歩いてみない?」と誘いやすかった
- 毎日の生活の中で支援活動に参加している実感があった

グリーンコープとの協働

9sapoは、特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット(大分県)と社会福祉法人グリーンコープ(福岡県)が設立し、協働で運営しています。

一般社団法人グリーンコープ共同体

九州・中国・関西地方・福島県に展開する16の生協と約43万人の組合員からなるグループです。安心・安全な商品の開発や、心豊かな暮らしを実現するための平和・環境・福祉・子育て・その他の支援など様々な事業と活動を、組合員が主役となって行っています。

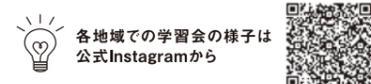
社会福祉法人グリーンコープ

グリーンコープ生協とワーカーズが母体となって設立した社会福祉法人です。広島から鹿児島までの9県で、高齢者の福祉・障がい者の福祉、こどもの福祉、生活困窮者の福祉に取り組んでいます。

グリーンコープ生協 学習会

2024.7~9

4月に開催されたグリーンコープ共同体の子ども若者支援シンポジウム「困難にさらされる子ども・若者たちの現状と未来に向けて」をきっかけに、グリーンコープ生協の地域単位の学習会が開催され、事務局長が各地で講師を務めました。孤独感やさびしさを抱える子どもや若者が自分たちのまちにもいること。親や家族を頼れなかったら若者たちはどんなことに困るだろうかと想像し、ともに考えあう、大切な時間となりました。そしてみなさまの思いを「子ども・若者支援カンパ」設立につなげていただき、合計で3,419,300円という多大な応援を寄せていただきました。各地域単位の組合員のみなさま、あたたかいご縁をいただき本当にありがとうございました。



1 各地で組合員のみなさんにあたたかくお出迎えいただきました。

2 「我が子の友達、最近いつもと様子がちがう」「いつもお店にひとりぼっちで来るあの子、大丈夫かな」「でもどうしたらいいんだろう」グループワークを通して考えるみなさんの様子です。



3 18歳から22歳の若者は、頼れる親がいなかったらどんな場面でどんなことに困るだろうかと想像しました。それぞれの立場や経験からたくさん言葉や思いがあふれ、時間が足りないくらいでした。

4 「これって本当に若者が自分ひとりでなんとかしないといけないの?」「頼れる大人がいなかったら自分だけががんばるのはやっぱりしんどいよね」心に残る言葉がたくさん生まれました。



5 「自分たちも考えることはたくさんだし一杯だけ、どんな若者も社会参加できるように、おたがいさまの気持ちで生活を支え合いたい」「グリーンコープにはまさしく共助のしゅみがある!」「自分にも何かできるんじゃないかと前向きな気持ちになった」みなさんの発表やご感想に大変励まされたひとときでした。

Message

グリーンコープでは、2024年4月に、シンポジウムを開催し、地域で支援活動を実践している、助成を受けた団体に報告をいただき、交流の場を持ちました。若者たちが置かれている現状を知り、取り組みの大切さをみんなで学びました。その後、矢野事務局長のお話を聴く学習会を各地(9カ所)で開催しました。グリーンコープで「様々な困難にさらされている子ども・若者の現状をなんとかしたい」と子ども・若者支援を一つずつ進めていく中、身近なこととして捉え、何ができるだろうと意見交換を行いました。受けて、若者たちが置かれている現状や彼らを支援する取り組みを、多くの組合員に伝え、社会で生きづらさを抱えている若者たちを応援することを呼びかけ、カンパを募り、後方支援の力

タチで九州若者サポートネットワークの活動に活かしていただきたいと考えました。2025年2月、「子ども・若者支援カンパ」として、一口200円、500円のカンパを2週間募り、取り組みに賛同いただいた組合員から合計で341万9300円をカンパいただくことができました。一人ひとりの組合員の応援の気持ちが、九州若者サポートネットワークを通して、支援する団体で活動に活かしていただくことを心より願っています。今後については、年に一度、児童虐待防止キャンペーン(オレンジリボン運動)期間の11月にカンパの取り組みを実施する予定です。

一般社団法人グリーンコープ共同体代表理事 日高容子さま



第1回 九州子ども・若者おうえん助成 助成先団体の活動報告

特定非営利活動法人 そだちの樹(福岡県)



団体紹介

児童養護施設や里親家庭で育った経験を持つ若者や困難を抱える若者の相談窓口として、生活やお金に関する相談に対応し社会とつなぐ活動をしています。若者が自分らしく生活できるよう、年齢や今置かれている状況に関わらず安心して相談できる場所を目指しています。

助成金の使い方

■ 若者おうえん枠

「公的資金を充てることができない若者の生活保障にかかる経費」

親や親族を頼らず金銭面や生活面で困難な状況にある若者たちのための緊急的な食糧支援や医療費の補助、来所時の交通費の補助等に助成金が活用されました。

実施内容の概要

目の前の金銭的問題を緩和し不安を軽減すること、安心できる環境の中で問題に向き合う経験を積むことを目指して、「生活支援費」「緊急宿泊費」「来所時交通費」「医療費」「食糧支援費」「郵送料」と項目を定め、それぞれの状況ごとに使いました。

若者たちは「お金の相談は言いにくい」と感じていたり、金銭問題を抱えていることに対して罪悪感を抱いていることがあります。そんな気持ちを受け止めながら、生活困窮の深刻化を防止することや、次の必要な支援につながるまで最低限の生活を確保すること、また、本人の自己決定を見守ることを欠かさないようにも意識しました。

若者たちは目の前の困難がひとつでも緩和・解消することで生活の立て直しに集中できます。それにより他の課題にも自身で向き合っていく姿勢ももてるようになり、モチベーションの回復にもつながりました。



コロナに罹患して動けないひとり暮らしの若者の元に、おかゆやゼリー、飲み物などを届けました。

Message

若者たちが自立をしていくタイミングでどうしても支援の手が届きにくい部分に助成金を活用しました。「若者のために使ってもいいお金」は伴走する支援者にとって、何かあった時も安心して支援に臨めるお守りのような存在になっています。



こんなオフィスに、みんな集まっています。



ちいさな一歩からつながる、
子ども・若者支援の輪

WEBサイト
インタビューは
こちらから



保護者の病気や離婚、経済的事情などさまざまな理由により親と暮らすことができない子どもたちを、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことを社会的養護といいます。令和5年4月現在約42,000人の子どもたちが、社会的養育のもと、児童養護施設や自立援助ホーム、里親等のもとで自分の親と離れて暮らしています。★参考:子ども家庭庁

一般社団法人 あまね(佐賀県)



団体紹介

全国初の取り組みである重症児・医療的ケア児のための多機能型拠点で、小児科やグループホーム、ショートステイなどを運営し、どんなに重い障がいがあっても生まれてきた地域で最期まで笑顔で暮らせる社会の実現を目指しています。

助成金の使い方

■ 若者おうえん枠

「里子が新生活を始めるにあたっての生活家電の新調」

里親委託措置解除後のアフターケアが必要な里子たちの共同生活に必要な生活家電の購入に助成金が活用されました。

実施内容の概要

里親である申請者のもとを巣立った里子に必要なアフターケアを継続する中で、もう1名の里子の進学にあたりルームシェアすることになり同時にサポートが必要になりました。

これまでは譲り受けた、いつ壊れてもおかしくない中古の一人暮らし用の家電を使っていたのですが、今回共同生活に必要な家電が購入できたことでごはんを毎日食べることができるようになったこと、一緒に料理を作って家族のように食卓を囲むことができるようになったこと、会話がはずみ、学校や生活の様子がよく見えるようになったこと、自炊が習慣化し、手作りのお弁当を学校に持参するほどまでになったことなど、たくさんの出来事が生まれました。

共同生活という日常の中で互いの生活習慣を見せ合いながら育ち合う姿を、親として生活面・精神面でサポートしながら伴走しています。



魚と野菜にしたいとリクエストがあった日の食卓。きんぴらごぼうの味付けを申請者に教わりながら作りました。

Message

今回はありがとうございました。2人とも自炊が身についてきました。共同生活が安定し、より充実したものになりました。

愛を育み、共に歩む
若者たちの安心な未来

WEBサイト
インタビューは
こちらから



保護者の病気や離婚、経済的事情などさまざまな理由により親と暮らすことができない子どもを自分の家庭に迎え入れ養育するのが「里親家庭」です。子どもが成長する過程においては特定の信頼できる大人との間での愛着形成がとても重要です。可能な限り家庭的な環境において安定した人間関係の元で育てることができるよう里親制度が推進されています。★参考:子ども家庭庁



大量のハヤシライスと一緒に作っている様子。



本申請者家族と一緒に食卓を囲んでいる様子。この日は家電がそろった日でした。

一般社団法人ある(沖縄県)



団体紹介

一人ひとりの「あるがまま」を大切に、施設や里親家庭を退所した子どもたちのための相談窓口や、実家に頼ることのできない10代のママを孤立させない子育て支援、性教育や命の大切さを伝える活動、SNSを活用した若者への相談支援などを行っています。

助成金の使い方

■ 若者おうえん枠

「公的資金を充てることができない若者の生活保障にかかる経費」

さまざまな背景をもつ4名の若者たちの家賃や携帯電話料金支払い、自立のための生活支援等に助成金が活用されました。

■ 活動おうえん枠

「社会的養護退所者のための地域資源活用型シェルター事業」

社会的養護の措置解除後、住まいを失ったり緊急的な避難が必要になった若者たちのため、関係機関の協力のもと沖縄県内3地域に宿泊場所を設置する新しい形のシェルター運営に助成金が活用されました。

実施内容の概要

■ 若者おうえん枠

まだ生活や就労が不安定な若者は、働けない日が数日も生じるとあっという間に生活困窮に陥ってしまいます。しかし若者が既存のセーフティネットである社会保障につながるには、社会保険の加入期間の要件や国保にそもそも傷病手当が適用しない、生活保護申請には居住地が必要など、対象となること自体に困難さがあります。また若者たちは相談することに慣れておらず、生活困窮に陥っていてもギリギリの状態に相談につながる事が多く、「待たなし」の状態であることも少なくありません。

今回の助成金で最低限の滞納分を即支払うことにより、若者たちに時間的な猶予が生まれ、金銭的な不安やプレッシャーの解消だけでなく精神的な安心・安全を得ることができ、その後の伴走支援で次のステップにつながる事ができました。

■ 活動おうえん枠

親を頼れない若者たちは、想定外の病気や人間関係でのトラブルに遭遇すると経済的に困窮し、孤立しやすい現状があります。沖縄県は南北に長い地形で多数の離島も点在しています。公共交通機関が限られ、生活に車が欠かせませんが、親を頼れない若者たちは交通弱者となりやすいです。また、団体の自主事業のシェルター1床だけでは延べ1000日近い必要日数に対応が難しく、DVから避難している場合には場所が特定されやすくなるというリスクもあります。今回助成金で那覇市内・中部地域・北部地域と各エリアにシェルターを設置できたことで、若者たちは生活圏を変えることなく即座に緊急な一時生活を送ることが可能となり、利用時期の重複にも柔軟に対応することができました。シェルターを利用した14名の若者たちは、安心して日々をすごしサポートを受けたことで、それぞれが地域のアパートやグループホームへと移行することができました。

Message

若者おうえん枠では4人の対象者の家賃の滞納、携帯電話の不払いを即座に埋め自立を支援することができ、活動おうえん枠では行くあてのない若者たちへ即座に場所を提供できたことで、彼らが抱えるその奥にある課題の発見にもつながり、手当てをすることができました。あたたかくホッとできる空間は「あなたのことを大事に思っているよ」という無言のメッセージにもなったように思います。

一時の生活をダイレクトにつなぐことができる助成金は、他の公的制度にはない制度の間を柔軟にスピード感をもって埋めることができます。10代の若者たちは、何でも自分ができるようになることが「自立」だと教えられてきており、相談する経験が圧倒的に少ないですが、「相談をしたら解決ができた」という成功体験となり、その後の関係性にもいい影響をもたらしてくれています。



柔軟性と継続で若者の自立を支える。
沖縄から発信する社会的養護のあり方

WEBサイトインタビューはこちらから



認定NPO法人トナリビト(熊本県)



団体紹介

親を頼れない10代～20代の若者を対象に、相談窓口や居場所スペース、緊急シェルター、自立支援シェアハウス、ワンルーム型住居等を運営し、幅広い支援を行っています。「自分は愛されるために生まれた!」とすべての子ども・若者が思える未来を目指して活動しています。

助成金の使い方

■ 若者おうえん枠

「若者の緊急的なシェルター利用にかかる経費」

シェルター利用者20名のうち12名の若者たちへの最大2週間分の利用料補助と食費等に助成金が活用されました。

■ 活動おうえん枠

「親を頼れない子ども・若者の居場所スペースおよび相談窓口事業」

社会的養護経験者や親を頼れない子ども・若者を対象とした居場所スペース「おとなりさん」の運営に助成金が活用されました。

実施内容の概要

■ 若者おうえん枠

親や交際相手のDVから逃げたい、仕事を無くし生活が困窮している、住む場所を失ったなど、緊急性が高い状況にある若者たちを保護するシェルターを運営しています。しかしシェルターに来る若者の多くは、所持金をほとんど持ち合わせていなかったり預貯金もほぼなかったりなど厳しい経済状況にあり、1泊1000円の利用料を支払うことが困難であることも少なくありません。助成金を最大2週間分のシェルター利用料や食費、生活に必要な消耗品購入に充てたことで、まずは若者たちにお金の心配や命の危険を気にせず安心して一息ついてもらうことができました。

シェルター利用日数は2日間という短期から最長で75日間(平均20.6日)と状況はそれぞれでしたが、安全な場所で心と身体を休められたことで、相談する勇気が持て、次のステップに進もうという気持ちになれば、一人暮らしやグループホームへの転居などそれぞれ長期的な住居に移ることができています。

■ 活動おうえん枠

社会的養護経験者や虐待を受けながらも公的支援につながらず社会に出た若者が安心して過ごせる居場所と相談支援を提供し、2024年度は171日開所し延べ508人の利用がありました。若者たちはほっとできる居場所や大人と出会うことで、挫折や失敗があってもまたやり直そうという気持ちが出ています。今回居場所に必要な諸経費や人件費に助成金が活用されたことで、日頃十分に食品を購入できない若者への食事の提供だけでなく、若者の誕生日を大切にしたり季節のイベントを楽しんだりすることができ、若者のニーズに応えることができました。その過程や人とのつながりがあったことで、若者たちが窮地に陥った際にSOSを受け取り必要な伴走支援を行うことが可能になり、孤独化・孤立化することを防ぐことができました。

Message

活動についてご理解、ご協力いただきありがとうございました!「おとなりさん」での日々の積み重ねが若者たちとの関係を築き、嬉しいことも悲しいことも共に感じてきました。また冷暖房完備・入浴やシャワーができる環境、温かいごはんがあれば、若者たちはホッとゆっくり眠ることができます。そして「これからどうしたいのか」を考えられるようになります。ありのままの若者を受け止めて、誰かが待っていてくれる場所、「助けて」と言っている場所としてそこに「在る」ことが継続できるように努めていきます。



「愛されるために生まれてきた!」すべての子ども・若者たちが思える未来を目指して。

WEBサイトインタビューはこちらから



ご支援(寄付)のお願い

子ども・若者たちに希望を、伴走者たちに安心を。

現行の子ども・若者に関する制度ではカバーしきれない困りを受けとめ、伴走する支援者や支援団体に助成を行うための「九州若者おうえん基金」は、みなさまのご寄付でつくられています。子ども・若者が頼れる大人とともに自立に向けて希望を持てるよう、伴走者に安心を届けられるよう、ご寄付でのご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

■銀行振り込みでのご支援

九州労働金庫	
金融機関	九州労働金庫
支店名	大分支店
口座種類	普通
口座番号	6583812
口座名義	九州若者サポートネットワーク 事務局長 矢野茂生

ゆうちょ銀行	
金融機関	ゆうちょ銀行
記号番号	01770-8-153784
名称(漢字)	九州若者サポートネットワーク
名称(カナ)	キュウシュウワカモノサポートネットワーク

ご寄付いただいたみなさまにはお礼のご連絡や活動報告書をお届けいたしますので、お手数ですが下記アドレス宛へのメールまたはフォームからご氏名やご住所をお知らせいただけますと幸いです。

Mail: info@9sapo.com
九州若者サポートネットワーク大分事務局



■クレジットカードでのご支援

定額を毎月寄付

9sapoとともに子ども・若者を継続的に支えてくださるマンスリーサポーター(毎月の継続寄付者)となってくださる方を募集しています。
金額は300円から自由に設定することができ、初回に手続きをすると翌月以降の手続きは不要で、毎月同じ額を継続的にご支援いただけます。

※寄付システム「Syncable」を利用しています。
※クレジットカード情報は当団体が保持せず、決済代行会社のOmise株式会社にて国際基準に準拠して安全に管理されます。

自由な金額を単発寄付

継続寄付でなく、その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしています。



ご寄付についてご不明な点がございましたらお気軽に事務局にお問い合わせください。

編集後記

今年の活動報告書はいかがでしたか？

みなさまの思いやご寄付等での9sapoへの参加が「九州若者おうえん基金」というかたちになり、若者の元に届いた様子を、丁寧にお伝えすることを意識しながら制作しました。

制作にあたっては、事業開始からこれまでにご縁をいただいたたくさんの方々の存在を感じ、子どもたち・若者たちを思うあたかなつながりが広がっていることに励まされる時間となりました。

また、助成先団体のみなさんとのミーティングの中では「サポートがあったことで若者たちに大きな変化が見られた」「自分たちだけで頑張っているのではなくバックで応援してもらっているという安心感があった」というお声をいただき、9sapoが大切にしたい「おうえんしたり、されたりしながらつながりあう」ネットワークが少しずつかたち創られていることを実感できた瞬間でした。

会ったことはないけど自分を応援してくれる人がある。

困難な状況や傷を抱えながら社会の中で生きることも子どもたち・若者たちに私たちの思いが届くことを願って、誰もひとりぼっちにならないおたがいさまのネットワークづくりを続けてまいります。

本報告書を通じてみなさまに何か伝わっていたら幸いです。(事務局)